

◎ 新着図書

「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『スプリング』 恩田陸 著 筑摩書房</p> <p>自らの名に無数の季節を抱く無二の舞踊家にして振付家の萬春(よろず・はる)。少年は八歳でバレエに会い、十五歳で海を渡った。同時代に巡り合う、踊る者 作る者 見る者 奏でる者——舞踊の「神」を追い求めた一人の天才をめぐる傑作長編小説。</p>	<p>● 『不思議な時計』 北村薫 著 新潮社</p> <p>記憶の森を探り行き、本との出会いを綴る。深まる謎を追い、魅惑の創作世界へ——映画、詩歌、演劇、父との思い出。江戸川乱歩「パノラマ島奇談」と美術館のパノラマ。塚本邦雄生誕百年、シェークスピア劇での松たか子、大竹しのぶの慧眼……はるかな異界へ連れ出される9篇。</p>
<p>● 『しをかうま』 九段理江 著 文藝春秋</p> <p>現代で競馬実況を生業とする、馬を愛する「わたし」は、人類と馬との関係を取り戻すため、そして愛する牝馬<しをかうま>号に近づくため、両者に起こったあらゆる歴史を学ぼうと「これまで存在したすべての牡馬」たる男を訪ねるのだった。</p>	<p>● 『定食屋「雑」』 原田ひ香 著 双葉社</p> <p>真面目でしっかり者の沙也加は、ある日、突然夫から離婚を切り出される。夫の浮気を疑い、頻りに夫が立ち寄る定食屋「雑」を偵察することに。その店には、一人店を切り盛りする老女「ぞうさん」がいた。沙也加はひよんなことから、この定食屋「雑」でアルバイトをすることになり——。</p>
<p>● 『誰にも死ぬという任務がある』 曾野綾子 著 徳間書店</p> <p>私たちは、人生をどう置くべきか。「曾野流死学」の真髓が詰まった名著に、夫である作家・三浦朱門氏の在宅介護と看取りを鮮明に綴った日記を併載。</p>	<p>● 『あきらめる』 山崎ナオコーラ 著 小学館</p> <p>近所の川沿いを散歩するのが日課の早乙女雄大。あれこれと思い悩みながら歩いていると、親子風の二人組に出会う。親に見える人は思い詰めた表情で「自分の人生をあきらめたい」と言う…。「あきらめる」ことで自らを「あきらかにしていく」物語。</p>
<p>● 『アルプス席の母』 早見和真 著 小学館</p> <p>秋山菜々子は、看護師をしながら一人息子の航太郎を育てていた。航太郎には関東一円からスカウトが来ていたが、選び取ったのはとある大阪の新興校だった。声のかからなかった甲子園常連校を倒すことを夢見て。息子とともに、菜々子もまた大阪に拠点を移すことを決意する。</p>	<p>● 『火輪の翼』 千葉ともこ 著 文藝春秋</p> <p>玄宗皇帝が政治を疎かにし国が乱れていた唐の時代、民を救うため安祿山と史思明が挙兵し、安史の乱が勃発する。だが戦は泥沼化し、国は疲弊する。絶大な人気を誇った力者の娘・呉笑星、史家の長男・史朝義、安家の次男・安慶緒は、命を賭して戦を終わらせようと誓うが——。</p>

おすすめ図書

『今日、誰のために生きる?』

ひすいこたろう / SHOGEN 著
廣済堂出版

アフリカの奥地で知った、日本人特有の凄い能力とは?



【文化会館所蔵】

画家を志す為、アフリカの小さな村に赴いた著者は、そこで暮らす素朴な村人たちと交流する中で、村に伝わる幸せに生きるためのひけつを学んでいきます。

- ・自分の休息を削ってまで仕事を優先するのは「恥ずかしいこと」
- ・外に干してある洗濯物は着たい人が着てよい。家族かどうかは関係なし。
- ・二日前に食べたお昼ごはんを覚えていること
- ・自分らしく生きると覚悟を決める。 などなど

なかには行おうが無理そうなものもありますが、その奥底には深いメッセージが隠されています。そして、それはなんと、もともとは日本人から教わったひけつ! とのこと。「アフリカに、かつての日本人の感性で生活が営まれ、ずっと幸せであり続ける村があった」なぜ!? 謎が解けると日本人であることが更に素敵に感じられること間違いなしです!

図書室スタッフS